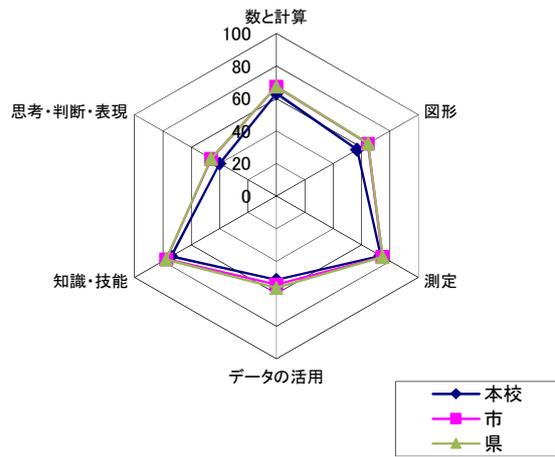


宇都宮市立東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.2	67.3	67.4
	図形	57.0	64.5	64.7
	測定	73.5	74.7	74.9
	データの活用	51.5	54.4	56.4
観点	知識・技能	74.1	77.6	77.8
	思考・判断・表現	40.0	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均と同程度である。</p> <p>○「3けた－3けた＝3けたの計算をする。」の正答率は84.9%であり、県の平均を5.4ポイント上回っている。</p> <p>●「余りの考えを用いて理由を説明する。」の正答率は45.5%で、県の平均を18ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・割り算の仕組みについて「わられる数」「わる数」「あまり」といった基本的なことから丁寧に指導する。 ・余りを切り上げて処理することの意味を理解させるために図や絵を使って説明したり、実際に箱などにブロックを入れて体験させたりするなど、具体的な指導をする。
図形	<p>平均正答率は、県の平均を7.7ポイント下回った。</p> <p>○「二等辺三角形を作図する。」の正答率は、県の平均と同程度である。</p> <p>●「球の半径について正しいものを選ぶ」の正答率は54.6%で、県の平均を10.1ポイント下回った。「円の半径と直径について正しいものを選ぶ。」の正答率は72.7%で、県の平均のより8.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・半径や直径との関係など、円の性質を改めて確認する。また、コンパスを使って円の作図をしたり、コンパスを使った模様を描いたりするなど、具体的な活動を通して、半径や直径の理解を深めていく。 ・球と半径の関係を理解させるために野球ボールやテニスボールを使った活動を取り入れる。
測定	<p>平均正答率は、県の平均と同程度であった。</p> <p>○「時間が経過する前の時刻を求める。」の正答率は87.9%で、県の平均を7.6ポイント上回っている。</p> <p>●「身近なものの重さの単位について、正しいものを選ぶ」の正答率は69.7%で、県の平均を10.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な物の重さについて、およその見当がつかないため間違えてが多いと考えられる。実際に教室にあるものなどの重さを図るなどして体験学習をふまえた指導していく。 ・(t)の単位を使ったものは実際に用意するのが困難なため、タブレット端末などを利用して調べる学習を取り入れる。
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均を4.9ポイント下回った。</p> <p>○「棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える」の正答率は、県の平均と同程度である。</p> <p>●2つの棒グラフを比較して答える問題の正答率は、県の平均を8.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの棒グラフを比較して答える問題では、棒グラフの1目盛りの読み取りができないため間違えていると考えられる。よって、棒グラフの1目盛りを表す数については、数値と数値の間の大きさや最小目盛りがその数値の何等分しているかを考える必要があるため、2とび5とび10とびなどの数直線の学習を取り入れていくようにする。